

2016年度 自己点検・評価【聖和短期大学】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2017年2月23日

責任者	聖和短期大学学長	作成部局	聖和短期大学
-----	----------	------	--------

2021年度に向けた教育研究目標

【A票：教育研究目標1】									
(タイトル) 保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む。									
(狙い内容) 子ども・子育て支援新制度への対応と学習効果のさらなる向上をめざして、新たなカリキュラムを編成する。また新カリキュラムにおける授業を有効に実施するため、教員の教授内容への周知・徹底を図る。									
1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標) 子ども・子育て支援新制度に対応したカリキュラムを編成して保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む									
<変更時記入欄>									
<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>									
2. 達成度評価									変更有無
評価指標	新制度の周知・徹底。新カリキュラムの編成および授業内容の周知						評価尺度	A：検討中 B： C： D：	有(無)
	<変更時記入欄>							<変更時記入欄> A：完全実施 B：文部科学省に新教育課程を提出した C：学内では検討している D：検討していない	
3. 年度毎の目標値									変更有無
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2015年度 (計画策定時)		免許・資格に関する情報収集、検討	新制度の周知・徹底 (専任教員対象)	新制度の周知・徹底 (非常勤講師対象)	現行カリキュラムの見直し、授業内容についての理解	新カリキュラム案の作成、検討。 授業内容についての理解	新カリキュラム決定、シラバス作成	新カリキュラムスタート	総括
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	<実績> B	実績	<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> C					
	見込・実績・目標 (値又は状況)	<実績> 教務委員会、学長室会を中心に 行った。		<2016年度末時点の見込み又は実績又は目標> 教授会で学長が説明した。					
【2016年度の進捗状況について】 ←									有(無)
教務委員会・学長室会を中心に検討している。教育職員免許法の一部改正が行われたが、その詳細は2017年6月に通知されるため、その後対応する。									
<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>									

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？	→ はい・いいえ
<上記で「いいえ」を選んだ場合>	
①理由：	
②今後必要な取組み：	

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

＜評価専門委員会・第三者評価結果＞ 2017年1月27日公示

- ・ 現況下、できることは実施されていると判断いたします。(A)
- ・ 進捗評価の見直しが期待されます。(C)
- ・ 改革のスピードを速めることが必要と思われます。(D)
- ・ 保育制度は新たな法整備も絡んで劇的な変化が進んでいますので、新制度に関するより一層の周知・徹底が期待されます。(E)
- ・ 子どもと子育て支援制度への対応が順調に進展しています。(G)
- ・ 引き続きの情報収集と学内での情報共有が望まれます。(H)
- ・ 今後も引き続き法令の変更に注意を払い、適切な対応が必要です。(J)

責任者	聖和短期大学学長	作成部局	聖和短期大学
-----	----------	------	--------

【A票:教育研究目標2】

(タイトル)

保育に関する研究成果を発信するとともに社会に還元し、保育界、地域社会との連携を強化する。

(狙い内容)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えることをねらいとして、研究活動の充実を図る。また保育界、地域社会との連携強化をねらいとし、実習協議会、リカレント教育、職業実践力育成プログラム(BP)、就職協議会等の実施、キリスト教教育・保育研究センター(RCCEC)による公開講座、関西学院子どもセンターにおける活動、学生ボランティア活動、教職員による社会的活動等の充実に努める。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えるために研究活動の充実を図る。また、新たに導入された子ども・子育て支援新制度への対応と実施に当たっている保育界、地域社会との連携体制をより強固なものとする。

＜変更時記入欄＞

＜変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入＞

2. 達成度評価

評価指標	・研究成果の公開発表・発信件数、公的研究資金の獲得状況 ・保育界、地域社会との連携強化を図る各種取組みの実施実績	評価尺度	A : 50%の増加 B : 25%の増加 C : 現状のまま D : 減少	変更有無 有・無
	＜変更時記入欄＞		＜変更時記入欄＞ A : 50%の増加 B : 25～49%の増加 C : 現状～24%の増加(2015年度のみ現状のままをCとしている) D : 減少	

3. 年度毎の目標値

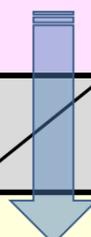
		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	変更有無	
2015年度(計画策定時)		C 達成目標等の周知徹底	C 1～5%の増加	C 6～9%の増加	C 10～19%の増加	C 20～29%の増加	B 30～39%の増加	B 40～49%の増加	A 50%の増加	有・無	
2016年度進捗状況 & 今後の目標値	評価尺度: A～D	＜実績＞ C	見込み	＜2016年度末時点の見込み又は実績又は目標＞							
	見込・実績・目標(値又は状況)	＜実績＞ 10月定例教授会にて周知した。		＜2016年度末時点の見込み又は実績又は目標＞ 値は3月末日に確定							

【2016年度の進捗状況について】 ←

2015年度値をベースにして、2016年度の最終値は年度末時点に確定する。

＜変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合＞

主に、旧評価尺度内の「現状のまま」という尺度は2016年度以降の目標値の達成度を計る上でフィットしにくいという理由で新たなものに変更をした。



2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

①理由:

②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

参照URL入力欄

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・特にコメントはありません。(評価のための実績値が年度末になるため、取組状況の確認ができない状況にあります。自己点検・評価を実施するうえで、評価方法の改善などの工夫が必要と思われます。)(A)
- ・保育界、地域社会との連携の実績数だけでなく、実施効果を測定する指標の開発が望まれます。(D)
- ・子どもと子育て支援制度への対応が順調に進展しています。(G)
- ・より積極的な取組みに期待します。(J)

責任者	聖和短期大学学長	作成部局	聖和短期大学
-----	----------	------	--------

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)
一人一人の学生の夢の実現に向けて、学生支援を強化する。

(狙い内容)
学生に対して適切な指導助言を行う体制として、アドバイザー制(クラス担任制)を充実し、各アドバイザー担当教員は、学生生活全般にわたり、きめ細かく修学・生活・進路の支援を行う。
学生の各々の状況に応じ、勉学を安心して続けられるよう、学生の生活を支援するため、各種奨学金の制度を適切に運用する。
進路支援の強化のため教員と聖和キャンパスキャリアセンターとの連携でおこなう就職支援委員会の活動を行い、現在の100%近い就職率を維持できるように進路支援を行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)
入学してきた学生がもつ保育者となる夢の実現のため、学生支援を行い、現在の高い就職率を維持する。

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄:2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価				変更有無
評価指標	就職率 幼稚園教諭免許・保育士資格等の取得率	評価尺度	A : 100% B : 95% C : 90% D : 80%	有(無)
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A : B : C : D :	

3. 年度毎の目標値										変更有無
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度		
2015年度 (計画策定時)	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、免許・資格 取得希望者の取得率90%の 維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	C 就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	有(無)
2016年度 進捗状況 & 今後の 目標値	<実績> C	見込み	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> C							
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)		<実績> 就職率:98.8% 幼稚園免許取得: 94.4% 保育士資格 取得87.7%	<2016年度末時点の 見込み又は実績又は目標> 値は3月末日に 確定						

【2016年度の進捗状況について】

就職状況は、2017年2月22日現在で、内定者数は143名である。2015年度の同時期の内定者数は148名であった。現在のところは、前年度と同様の進捗状況である。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度の取組み状況の確認

2016年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→

はい・いいえ

<上記で「いいえ」を選んだ場合>

- ①理由:
- ②今後必要な取組み:

※上記の目標、行動計画の進捗に関する参照URL【任意】

<評価専門委員会・第三者評価結果> 2017年1月27日公示

- ・特にコメントはありません。(目標2と同様)(A)□
- ・全体的に良く改善が進んでいます。
- ・詳細な点では、次の2点があります。
【A票:教育研究目標3】
幼稚園教諭免許・保育士資格等の取得率 C(90%)となっていますが、免許資格は個々に表記できないでしょうか。幼稚園や保育所等では同じように扱っていることもありますが、本来は別制度ですから表記方法を検討することが期待されます。
- ・評価指標として挙げられた「就職率・幼稚園教諭免許・保育士資格等の取得率」は別々の指標として評価尺度を設定できないかの検討が期待されます。(C)
- ・就職支援対策の充実が望まれます。(D)
- ・就職率、資格取得率は、順調に推移しています。(G)
- ・就職支援に対する学生の満足度を測ることは大変意味のあることと思います。(H)
- ・きめ細かく実施されています。(J)